

たからものずかん 3

じょう もん じ だい  
いわきの縄文時代 I

そう かつ へん  
- 総括編 -



あいや いせき じつぶつたい  
**愛谷遺跡 (実物大)**

りょうて ひろくち 両手を広げ口をおおきく  
あ かお どまき 開けた顔をもつ土器

き こう おん だん か かいめん じょうじょう じくせい へんか ひとく 気候の温暖化による海面の上昇にともない、植生が変化して人びとの暮らしもおおきく  
さま が じだい なわ きめん ころ ほんよう じょうもん どき  
様変わりします。この時代には、縄を器面に転がして文様をつけた縄文土器がつくられ、  
じょうもん ぶんか 縄文文化がはじまりました。

じょうもん どき 縄文土器がつかわれた13,000年前から2,300年前までを縄文時代といい、6つの時期  
そ う そ う き そ う き ねん まえ (草創期・早期・前期・中期・後期・晩期) に区分されます。土器の文様や形は、年代と地  
いき 域によってことなります。

2016

こうえきさいだんほうじん しきょういくぶんかじぎょうだん  
**公益財団法人いわき市教育文化事業団**

じょう もん ぶん か

## 縄文文化のはじまり (今から約9,000~6,000年前)

土器の出現によって、食料の煮炊きや、木の実などのアク抜きが可能となり、食べられるものも格段と増えました。土器を用いた食料の保存もできるようになり、生活環境はおおきく変化していきました。先の尖った土器は地面にさして安定させてつかいました。

- ・土器づくりの開始
- ・尖底土器と押型文土器の流行
- ・弓矢の本格的出現
- ・竪穴住居がつくられる



撲糸文土器  
(高さ約 33cm)



山形押型文土器  
(高さ約 31cm)



沈線文土器  
(高さ約 32cm)



龍門寺遺跡 (高さ約 50cm)

竹之内遺跡



市内最古の竪穴住居跡 (竹之内遺跡)



織維土器 (高さ約 50cm)

上ノ台遺跡

かい つか ぶん か はつ たつ  
**貝塚文化が発達する** (今から約6,000~5,000年前)

そく き にくらべ、へい きん き おん やく ど あ ど き あん てい お ひら ぞこ ど き  
 早期にくらべ、平均気温は約2~3度上がりました。土器は、安定して置ける平底土器  
 が一般化します。土器を飾る文様は、前半では鳥が羽を広げた様な縄文ですが、後半には  
 細い粘土紐を貼り付けたり、ヘラや貝がらなどをつかった複雑な文様に変わります。

- 底の形態変化(尖底から平底へ)
- 漁撈技術の進歩
- 集落の拡大
- 耳飾りの流行



下平石遺跡 (高さ約 27cm)



縄紐を押し付けた文様



連郷遺跡 (高さ約 45cm)



玦状耳飾り (石製品)

差塙D遺跡 (長さ 5.6cm)



ヘラと貝がらで  
描かれた文様

綱取貝塚 (高さ約 31cm)

じょう もん ぶん か さい せい き  
縄文文化の最盛期 (今から約5,000~4,000年前)

なが 長さ60kmにもおよぶいわきの海岸沿いには、約20ヶ所の貝塚が見つかっています。貝塚  
どう じ ひと た きよ かい るい た やく か しょ かい づか み  
には、当時の人びとが食べた魚貝類の食べかすや壊れた土器・石器が捨てられました。

- ほう ふ き しゅ ぞう けい と ど き りゅう こう  
・豊富な器種と造形に富んだ土器の流行
- かい がん ぞ はな ひら かい づか ぶん か  
・海岸沿いに花開いた貝塚文化
- しょく ぶつ しつ しょくもつ たか  
・植物質食物の高まり



大畠貝塚 (高さ 31cm)

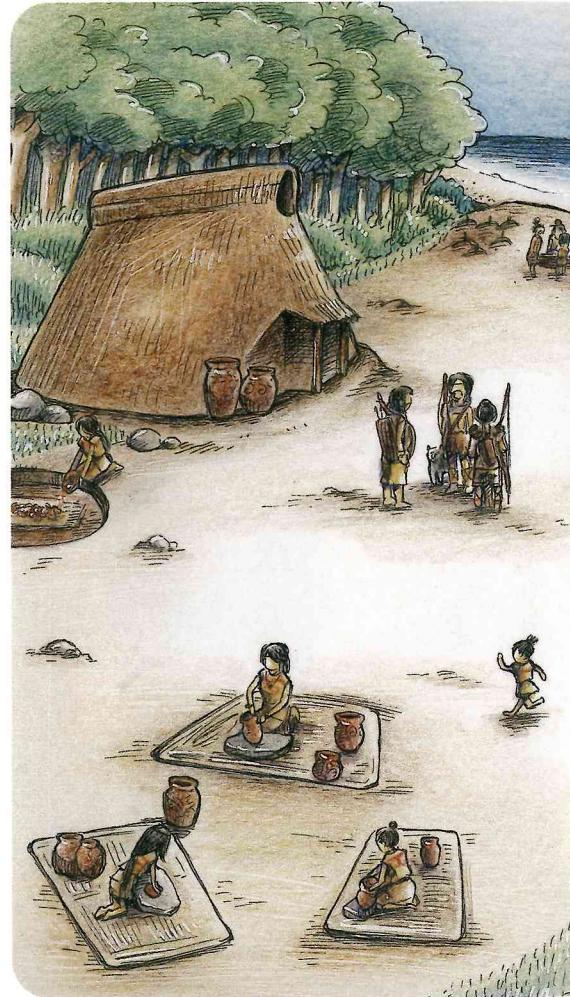
拡大



松ノ下遺跡 (高さ 39cm)



発掘された山あいのムラ (上空から見た松ノ下遺跡)

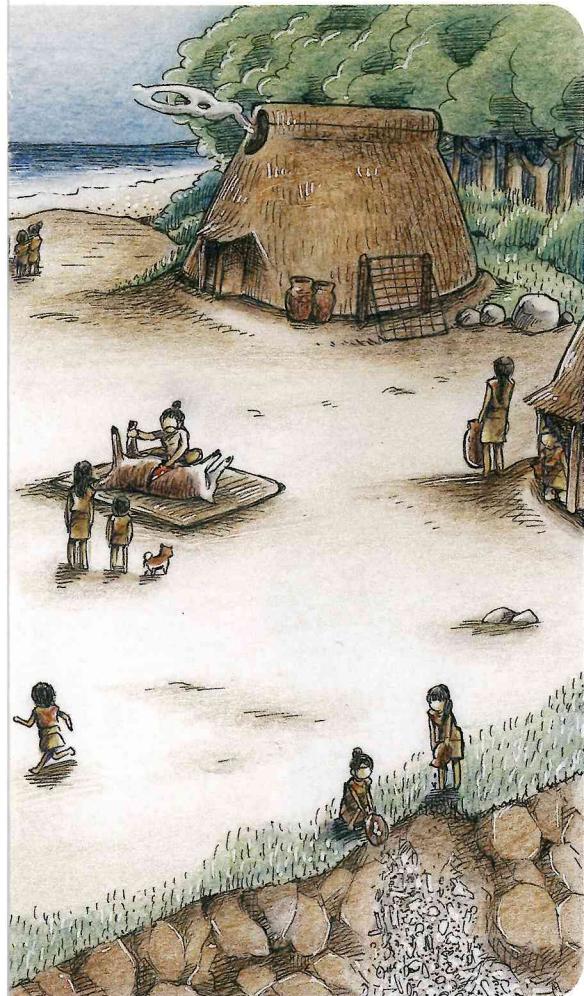


うみ べ  
海辺のムラのようす



愛谷遺跡 (高さ 28cm)

このころの土器は、炎のような立体的な形や渦巻き文が描かれるなど複雑化します。また、煮炊きのための土器が炉に利用されたり、埋葬に使われることもありました。



うわのうちいせきたか  
上ノ内遺跡 (高さ 30cm)



かくたい  
拡大



あいやいせきたか  
愛谷遺跡 (高さ 16cm)



かくたい  
拡大



あし  
ヒトの足が付いた土器

よこやまびいせきたか  
横山B遺跡 (高さ 40cm)



おおはたかいづかたかやく  
大畠貝塚 (高さ約 62cm)

# 注口土器の普及 (今から約4,000~3,000年前)

大きな山形の把手をもつたり、注ぎ口を付けた土器のほか、まめつぶほどの粘土を貼り付けたものもあらわれます。また、一度付けた縄文を磨いて消す手法も発達します。

- ・多様な形の土器
- ・骨角器の発達
- ・土偶の一般化



釣り針(単式)  
(長さ 4.9cm)



釣り針(結合式)  
(長さ約 6cm)



もりがしら  
鎚頭  
(長さ 6cm)



もりがしら  
鎚頭  
(長さ 9cm)



ヤス  
(長さ 6.5cm)



作B遺跡 (高さ約 51cm)



郡遺跡 (高さ 62cm)



番匠地遺跡 (高さ約 43cm)

注ぎ口と  
把手をもつ土器



作B遺跡 (高さ 15cm)

顔と手足の一部  
が折られた  
ハート顔の土偶



愛谷遺跡 (高さ約 15cm)



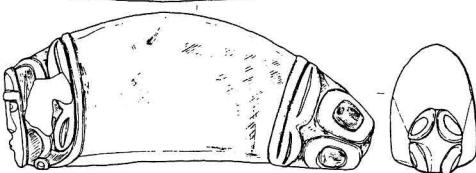
根古屋遺跡 (高さ 29cm)

# かめ が おか ぶん か なん か 亀ヶ岡文化の南下 (今から約3,000~2,300年前)

縄文時代も終わりごろになると、土器は曲線や平行線をもちいて美しく磨いたり、器面を彫り込むなどして、装飾性に富んだ薄く精巧につくられた土器が出現します。

- ・気候の冷涼化
- ・漁撈技術の改良
- ・漆塗り容器の発達
- ・拔歯の風習

バナナの形の磨製石器で、一方の端面にヒトの顔が彫られている (東京国立博物館収蔵品)

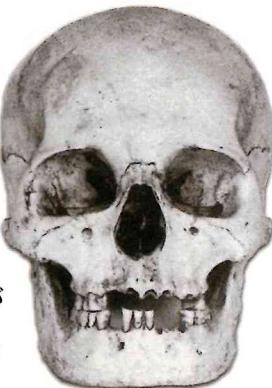


冷水遺跡 (長さ 20.3cm)

石棒

差塩D遺跡 (高さ 6.3cm)

上の犬歯が抜かれている



久保ノ作洞窟



かくだい  
拡大



番匠地遺跡 (高さ約 14cm)



かくだい  
拡大



番匠地遺跡 (高さ約 12cm)



高戸A遺跡 (幅約 30cm)



差塩D遺跡 (高さ約 23cm)



根室遺跡 (高さ約 11cm)

縄文時代の生活は、四季折々の自然から与えられる恵みを有効に利用した採集・狩猟・漁撈が中心でした。発掘調査をおこなうことによって、数千年前の縄文人の暮らしぶりが次第に明らかになってきています。

このような遺跡は、わたしたちが暮らす地面の下に今も埋もれているのです。

### 用語解説

#### 縄文時代

どうぶつさかなかい  
動物や魚・貝のほか、木の実などを食料としていた時代

#### 縄文土器

よひもかいでんもんようつどき  
擦った紐を回転して文様を付けた土器で、粘土を焼いて作る

#### 尖底土器

そごとがどき  
底が尖った土器  
ほそまるぼうひょうめんきざい  
細い丸棒の表面に刻みを入れて回転してできた文様

#### 押型文

じめんえんけいしがくけいほさなかはしら  
地面を円形や四角形に掘り下げ、中に柱を立てて屋根をふき、床に炉をもつ住まい  
ほそひもまつかりでんもんよう  
棒に細い紐を巻き付けて回転してできた文様

#### 豊穴住居

さきえがもんよう  
先のとがったへらで描かれた文様

#### 撚糸文

ねんどなかしょくぶつせんいままとき  
粘土の中に植物纖維を混ぜて土器をつくる

#### 沈線文

かたち  
と、形がこわれにくい

#### 纖維土器

うみかわみずうみぎょかいりいさい  
海・川・湖などで魚貝類を採取すること

#### 漁撈

いしのみがあなあ  
石をたいらに磨いて穴を開けた耳飾り。前期から中期に流行

#### 玦状耳飾り

た食べられるキノコ・ドングリ・クリなど

#### 植物質食物

どうぶつほねつのどうく  
動物の骨や角などでつくった道具（モリ・ヤス・釣り針など）

#### 骨角器

ヒトや動物をかたどった土製の人形

#### 土偶

あおもりけんぱんきゆうめい  
青森県の晩期の有名な遺跡。土器・石器・

#### 亀ヶ岡文化

こつかくきはつけん  
骨角器が発見された。とくに、土器は独特

#### な特徴

ひとくちょうにほんせんたいひろ  
な特徴をもち、東日本全体に広がった

#### 漆塗り容器

うるしめどき  
漆が塗られた土器

#### 抜歯の風習

いつていねんれいなつこいはぬ  
一定の年齢に達すると故意に歯を抜くこと

### 掲載された遺跡

#### 愛谷遺跡

たけのうちいせき  
竹之内遺跡

おおはたかいづか  
大畠貝塚

れんこういせき  
連郷遺跡

#### 下平石遺跡

つなとりかいづか  
綱取貝塚

#### 松ノ下遺跡

よこやまびいせき  
横山B遺跡

こおりいせき  
郡遺跡

さくびいいせき  
作B遺跡

ばんじょうちいせき  
番匠地遺跡

ねごやいせき  
根古屋遺跡

くぼのさくどうくつ  
久保ノ作洞窟

ひやみずいせき  
冷水遺跡

こうどえいせき  
高戸A遺跡

ねむろいせき  
根室遺跡

てらわきかいづか  
寺脇貝塚

#### 平赤井字窪田

みわまちもしらいちがやあざたけのうち  
三和町下市萱竹字窪田内

いずみまちしらかわあざおおはた  
泉町下川字大畠

ひさのはままちひさのはまあざれんごう  
久之浜町久之浜字連郷

やまと  
ダゴ山

たひとまちたびうどあざしまひらいし  
田人町旅人字下平石

おなはましもかじろあざつなとり  
小名浜下神白字綱取

おおさく  
大作

かわべまちまつのした  
川部町松ノ下

たいらかみひらくばあざよこやま  
平上平窪字横山

なこそまちくばたこおりかたきし  
勿来町窪田郡・片岸

みわまちしらながいあざさく  
三和町下永井字作

うちごうみまやまちばんじょうち  
内郷御厩町番匠地

みわまちしらいちがやあざねごや  
三和町下市萱字根古屋

たいらしもたかくあざくぼのさく  
平下高久字久保ノ作

とおのまちかみねもどあざひやみす  
遠野町上根本字冷水

みわまちかみながいあざこうど  
三和町上永井字高戸

たひとまちにちぶあざねむろ  
田人町荷路夫字根室

おなはまあざごみなどてらのわき  
小名浜字古湊・寺ノ脇

イラスト：宗川美貴

平成28年3月30日発行

たからものずかん3

いわきの縄文時代I

はつこう  
発行  
へんしゅう  
編集

こうえきざいだんほうじん  
公益財団法人いわき市教育文化事業団(いわき市考古資料館内)

しきょううばんふじわらまちてばい  
ふくしまけん

しきょううかんない  
福島県いわき市常磐藤原町手這50の1

〒972-8326

電話 0246-43-0391(代表) fax 0246-43-0395

©2016